

6 鶴見の伝統文化

鶴見区には、人々の暮らしの中で長い年月をかけて生まれ、大切に受け継がれてきた様々な伝統文化があります。

● 鶴見の田祭り

鶴見神社の「鶴見の田祭り」は、鎌倉時代から鶴見に伝えられてきた横浜最古の民俗芸能です。田祭りは、「練れ、練れ、練れや」で始まる「神寿歌（かみほぎうた）」に合わせ、稲作の一連の所作を模造の鍬や鎌など使って歌い踊り、豊作と子孫繁栄を願った予祝の行事です。明治初期に途絶えてしまいましたが、鶴見歴史の会や地元有志の方々の多大な努力により 110 余年ぶりに復活しました。

神寿歌は、江戸時代の著名な国学者黒川春村氏が、「古風な祭礼の中で歌われる古雅な唱歌」と称え、柳田國男氏も注目した民俗や風習などを伝える、文学的にも民俗学的にも優れた貴重な文献です。田祭り（田遊び）は、三河・遠江・駿河の東海道筋から相模国の一宮（寒川神社）を経て鶴見にも伝わったと考えられています。

貴重な伝統芸能を復活させるべく、昭和 58 年に旧家に眠っていた古文書などを発掘し田祭りに関する調査研究が開始されました。他地域で継承されている「田遊び」も見学し、所作や節回しなどを参考にして、昭和 62 年に民俗芸能「鶴見の田祭り」が再興しました。現在は毎年 4 月 29 日に開催されており、平成 29 年に再興 30 周年を迎えました。

（写真は平成 29 年度の様子。写真提供：鶴見田祭り保存会）



代かき



種まき



柄振りかき

● 蛇も蚊も祭り

生麦の蛇も蚊も祭り（じゃもかもまつり）は、疫病退散と豊年豊漁を願って江戸時代から続く貴重な伝統文化行事で、横浜市指定無形民俗文化財にもなっています。毎年 6 月の第 1 日曜日に、茅（カヤ）で作った全長約 20 メートルの大蛇を担ぎ、「蛇も蚊も出たけ 日よりの雨け」というかけ声をかけながら生麦の町を練り歩きます。



本宮蛇も蚊も保存会の大蛇



生麦蛇も蚊も保存会の大蛇

● 横溝屋敷

獅子ヶ谷にある横溝屋敷は、山と竹林に囲まれた自然豊かな敷地に、表門、穀蔵、文庫蔵、主屋、蚕小屋の 5 棟からなる屋敷構えが創建当時のまま残されており、江戸時代の農村生活の名残りを伝えています。昭和 63 年に横浜市指定文化財に指定されました。七草がゆ、豆まき、ひな祭り、お月見、田植え・稲刈り体験等四季折々の行事が行われており、自然と調和した豊かな暮らしの営みが地域で受け継がれています。



横溝屋敷